

『徒然草』「ある人、弓射る」(文法)

ある人、弓射ることを習ふに、諸矢をたばさみて的に向かふ。師のいはく、「初心の人、二つの矢を持つことAなかれ。のちの矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。毎度ただ得失なく、この一矢に定む①べしと思へ。」と言ふ。Bわづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかにせ②んと思はんや。懈怠の心、自ら知らずといへども、師これを知る。この戒め、万事にわたる③べし。

道を学する人、夕べには朝あら④んことを思ひ、朝には夕べあらんことを思ひて、重ねてCねんごろに修せんことを期す。いはんや一刹那のうちにおいて、懈怠の心あることを知らんや。なんぞ、ただ今の一念において、ただちにすることのはなはだDかたき。

問一 傍線部A～Dの用言について活用の種類と活用形を答えなさい。

C	A
D	B

問二 傍線部①～④の助動詞について、意味と活用形を答えなさい。

③	①
④	②

『徒然草』「ある人、弓射る」(文法) 解答

ある人、弓射ることを習ふに、諸矢をたばさみて的に向かふ。師のいはく、「初心の人、二つの矢を持つことAなかれ。のちの矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。毎度ただ得失なく、この一矢に定む①べしと思へ。」と言ふ。Bわづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかにせ②んと思はんや。懈怠の心、自ら知らずといへども、師これを知る。この戒め、万事にわたる③べし。
 道を学する人、夕べには朝あら④んことを思ひ、朝には夕べあらんことを思ひて、重ねてCねんごろに修せんことを期す。いはんや一刹那のうちにおいて、懈怠の心あることを知らんや。なんぞ、ただ今の一念において、ただちにすることのはなはだDかたき。

問一 傍線部A～Dの用言について活用の種類と活用形を答えなさい。

C	A
ナリ活用	ク活用
連用形	命令形
D	B
ク活用	ナリ活用
連体形	連用形

問二 傍線部①～④の助動詞について、意味と活用形を答えなさい。

③	①
推量	意志
終止形	終止形
④	②
婉曲	意志
連体形	終止形